

中近東圏 シリア国

背景：

1994年から1997年まで、国際耕種のスタッフがJICA長期専門家として、シリア国農業農地改革省・農業普及局に派遣された。ここでは、業務の一環として現地側のカウンターパートと一緒に、薬用植物を中心とした有用植物ならびに現地有用技術に関する情報収集とデータベース作りを行った。さらに、他のスタッフが1999年から2001年まで同省訓練局に派遣された。その間、シリアで働く他の長期専門家や協力隊員達との交流の中で、同じ国際協力分野で活動するものとしての悩み、グチ、将来へ向けての改善点等々、さまざまなことを話し合う機会があった。そうした中から、有志の集まりとしての「ODA勉強会」が組織され、「自助努力と支援」や専門家と協力隊員間の「連携」を目的とした活動が始まった。これらの活動を通して、「参加型開発」や「草の根協力」の意味をシリアという国情の中で考え、コミュニティに根ざした活動の展開はどうあるべきかを模索して行こうとしている。

活動：

1998年6月

- 薬用植物を中心とした有用植物に関する情報収集とデータベース作りを開始し、現在も継続している。
- 果樹園からの副産物を利用した炭焼きと木炭による水質浄化の可能性に関する調査を行った。

2000年～

- 「ODA勉強会」においては、話し合いだけでなく具体的な活動が必要と考えるようになり、コドセイヤの養護施設における「園芸療法」の試みを開始した。
- これを機に、同じような職種や配属機関、あるいはそれらが違って共通の場で活動できる人たちが集まってグループを作って独自の活動をしていく「分科会方式」が取られるようになった。

2001年3月

- 「園芸療法」の試みに対して国際耕種から作物栽培の専門家を派遣し、養護施設および少年院の農園で野菜や花卉の栽培指導を行った。

